

世界にとどけたい安全な水

一箕小学校 四年 中村 望実

わたしは家族でキャップに行きます。キャップに行く時は、水とうにその日に飲むお水を、料理や手を洗うときに使うお水をタンクに入れて行きます。お風呂やシャワーがついているところもあります。ないキャップ場ではお風呂に入れません。わたしが一番気になるのはトイレです。トイレが近くにあると安心します。キャップはとても楽しいですが水が自由に使える家での生活とは少しちがいます。

家では水道からいつでも安心して水を使うことができます。では、いつからこの水道はできたのでしょうか。調べてみました。

日本で水道ができたのは江戸時代だそうです。それより前は、川の水や井戸の水をくんで使用していましたが、水のごれの問題や江戸に人がふえたことで、今の水道の元となる水道が作られました。

明治時代には、さらに東京の人はふえ、水はきたなくなり、コレラなどの伝染病がはやるようになり、水道の整備が急がれ、今にながる水道ができたそうです。

水は飲むためだけでなく、私たちのけんこうを守るためにも大切な役わりをはたしている事がわかります。

水道がないフリカなどでは、他の動物も使っている川の水や、きたない井戸の水を使っているところもあります。そのような水には、病気を引き起こす菌がいて、病気でなくなる人がたくさんいるそうです。

ーまた、いつでも水が出るじゃ口がないので川の水や井戸の水をどんなに遠くても自分で運ばなければなりません。毎日水をくみに行くために学校にも行けない外国の女の子の話を本で読んだことがあります。家族で使う水をくむために勉強したくても学校に行くことができないなんて、とてもおどろきました。

世界で見ると、水道のある国は百九十六カ

国中、五十カ国以下。しかも、水道がある国の中でも、水道水が飲める国はたったの十五カ国しかないそうです。

あまりにも少なくておどろきます。

私の住む会津若松市も、四百年前に会津の人のためにいなわしろ湖から水を運ぼうと、自分のお金を使って水路を作ってくれた人がいたそうです。その人のおかげで今、私はおいしい水も飲めるし、トイレにも行けます。けんこうな毎日を送れているのだとあらため

て感じました。

水道があつて、水道の水を何も気にせず飲めること。きれいな水のお風呂に入れたり、プールで泳ぐことができること。トイレを使つた後は水で流し、けんこうでいられること。どれもあたり前だと思つて生活してききました。昔の人達の苦労と努力によつて作られていたことが分かりました。

地球上にたくさんある海の水を、飲むことができない水にかえることができればも、とた

くさんの人に水をとどけられると思いますが
それにはまだまだお金がかかるそうです。水
がたりない、まずしい国ではそのぎじゅつを
買うお金がないそうです。

世界に安全な水をたくさんとどけることは
まだまだむずかしい事かもしれません。でも
安心して使える水がある日本に住んでいる私
だからこそ、大切に使おうと思います。